特集にあたって

腰塚　武志（筑波大学社会工学系）

いまから3年ほど前の秋，平成5年10月に筑波大学において学会の研究発表会が開催され，地元筑波研究学園都市に本拠を置く研究会の特別セッションということで「都市の省エネルギー」に関係する研究発表が行われた．本誌の特集にこれが取り上げられたのが平成6年5月号「都市の省エネルギーをめぐって」であり，後述するようにこれは平成3年度から7年度までの5年間のプロジェクトの中間段階におけるまとめであった．プロジェクトの目的や全体像を述べると，前回の特集と重複するが，この号だけの読者のために敢えて記すると以下のようになる．

建設省が平成3年度から5年間の予定で始めた総合技術開発プロジェクト「省資源・省エネルギー型国土建設技術の開発」は，建設分野における地球環境への負荷の把握およびその監視技術の開発，省資源・省エネルギーやリサイクル技術および地球環境に与える負荷の少ない未利用資源・エネルギーの利用技術の開発，を行い地球環境に与える負荷の小さい省資源・省エネルギー型の国土建設システムの開発を図ることを最終目標としていた．

研究は建築研究所，土木研究所，国土地理院の3研究機関によって実施され，このうち建築・都市に関わる分野を建築研究所が担当し，これらは

1．建設時の省資源・省エネルギー評価法の研究
2．管理運営の省資源・省エネルギー評価法の研究
3．省資源・省エネルギー型建築および市街地計画ガイドラインの研究

の3つに分かれていた．この3.の過半の部分に関して「都市構造とエネルギー研究会（主査：筑波大学腰塚武志）」が設置され，都市計画技術に対応する対策の検討が進められたが，この研究会には関連する電力中央研究所，東京電力，東京ガス，日建設計，計量計画研究所等からもメンバーが参加した．平成3年度から途中平成5年度までの研究会の主な検討内容は前回の「特集にあたって」で(1)から(5)までにまとめてあるが，後半の平成6，7年度には(6)面的省エネルギー対策の導入効果の推計手法の開発，(7)市街地計画ガイドラインの作成，がつけ加えられた．

研究期間を通じての我々の主要なテーマは，都市の省エネルギーに関する「定石集」を作成し，これを都市計画に関わる「市街地計画ガイドライン」にどのように結びつけるか，というものであった．「定石」とは前回と重複するが以下のような考え方に基づくものである．

たとえば一つの局面でエネルギーを最小にする都市構造を考えても，これを建設するときに膨大なエネルギーを要したり，管理や維持に莫大なエネルギーを消費したのでは，話にならない．省資源とか省エネルギーの問題は，どの範囲までを議論の対象とするかによって結論が違ったものになってしまう．そこで，議論の前提を分かりやすく単純化し，この前提のもとで，厳密に得られた結果を，囲碁や将棋でいう定石(定跡)のようなものと考え，都市の省資源，省エネルギーを考えるうえでの定石集を作りたい．複雑な現実に対処するために，これら定石や経験をたよりとし，その都度熟考を重ねて判断を下して行くという方法論もあるのではないかという主張であった．

平成8年3月の研究終了時に我々は結果として約30項目の定石を作成した．編集委員会から研究会の最終報告に関する特集のお話を頂いた時，我々は内容について議論し，できれば定石集で特集を組んでみたいと思うに到った．しかしあれこれ考慮すると限られた枚数では各定石の前提や内容を十分議論できず，誤解を生む可能性が大きい．

そこでまず，最初の1編でいくつかの定石を簡単に解説し，あわせて都市計画に結びつけるべき「市街地計画ガイドライン」に関係した内容をもり込むことにした．次の2編は定石を生む背景となった研究を，従来通りの論文形式で提出し，最後の論文では我々の後半期の主要研究テーマ(6)に関係して，具体的に渋谷駅周辺地区を対象として行ったケーススタディ等を紹介することとした．

こしづか　たけし　筑波大学　〒305 つくば市天王台1-1-1

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．